

平成29年2月

『町内会・自治会での「見守り・支え合い」を考えるつどい』について
【 宇治中地区 】

1. 概要

[日時] 平成29年1月25日(水) 14時00分～15時30分

[会場] 宇治市生涯学習センター 第2ホール

[参加者] 町内会・自治会役員(代理含む)

申込		参加	
団体数	申込者	団体数	参加者
26団体	28名	23団体	25名

宇治市地域包括支援センター 5名

京都橘大学看護学部生* 2名

宇治市社会福祉協議会 2名

宇治市健康生きがい課 1名

宇治市文化自治振興課 5名

*地域包括支援センター実習生

2. 当日の流れ

- (1) 始まりの挨拶 【文化自治振興課】
- (2) 地域懇談会の趣旨等についての説明 【文化自治振興課】
- (3) 地域で活動する組織の活動紹介 【宇治市社会福祉協議会】
【地域包括支援センター】
- (4) 懇談

1組10名程度のグループに分かれ、グループワークを行いました。

文化自治振興課職員が進行役を担当し、「同じ地域住民同士でお互いの生活をどう支え合っているのか」という視点で、参加者の皆様に、地域の理想像から、日頃考えていることや課題、実際に取り組んでおられる活動等について、意見・情報交換を行いました。

※ 模造紙と付箋、ペンを用意

発言等

<Aグループ>

- ・ 新聞を取り入れていないお宅を発見した場合、まず会長に連絡がいき、安否確認へと繋げている。
- ・ 孤独死をなくすことを第一に考えており、まずは声かけを積極的にし、各世帯の家族構

成を把握するようにしている。

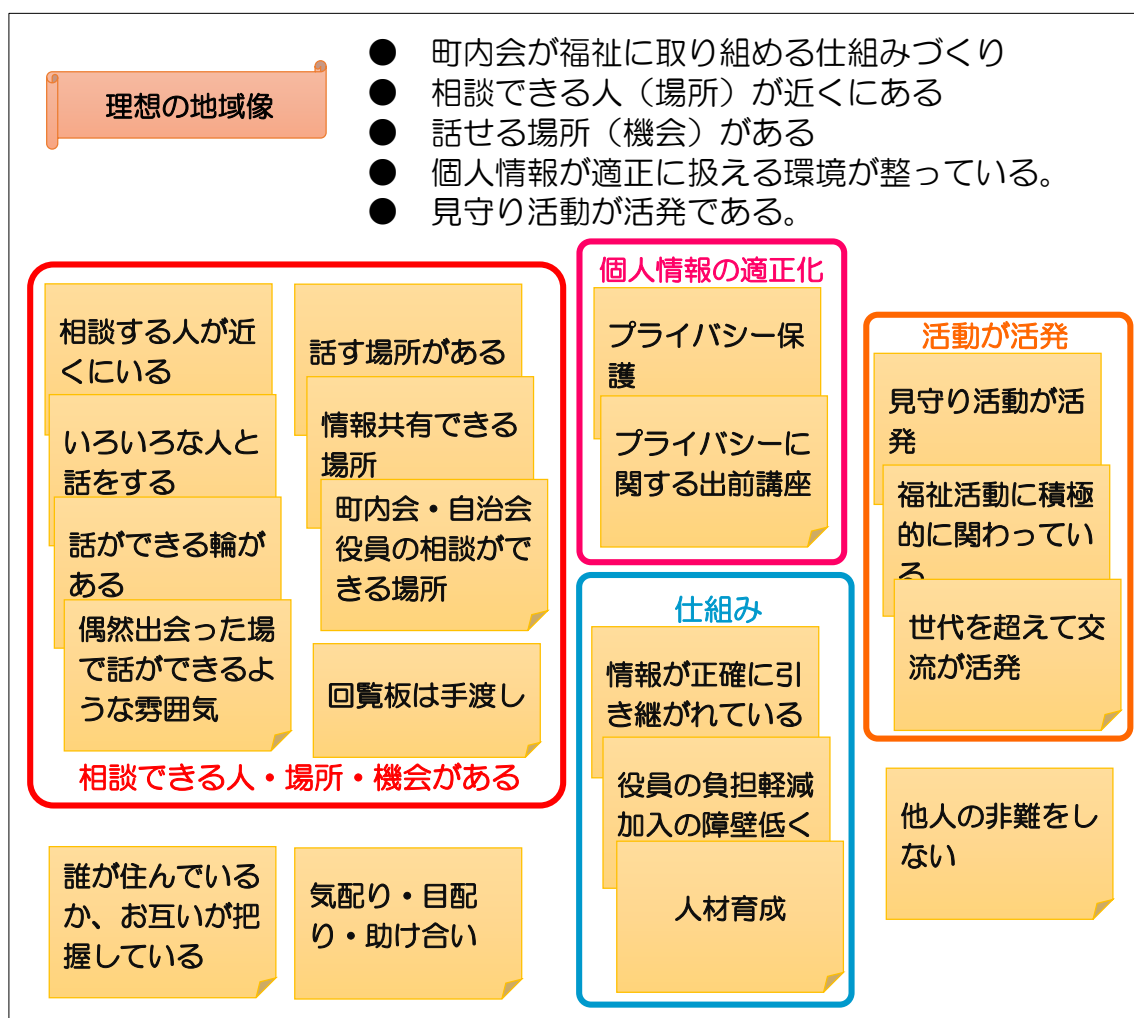
- ・ 今年度、75才以上を対象とした敬老会に町内会として初めてお祝いをした。
- ・ 小学校区単位で開かれる区民運動会には、高齢化もあり、町内からの参加者も少なく、年齢別種目も出られない。
- ・ ご近所を大切に、心を開いてもらうにはどうすればよいかと考え、率先してご飯のおかずを持っていくこと、おすそ分けをしておき、おかずを持っていくことで、交流を図り、交流することで本音を聞くことにつながる。
- ・ 町内の旧住民と新住民のつながりをどうしようか考え、ふれあい祭りを開き、それがサロンを開催するきっかけとなった。
- ・ 夏祭りなどの老若集う機会があることで、お互いに知るきっかけとなり、そうしたイベントがあることで、地域の和を最低限保っている。
- ・ 町内会で温泉や旅行に行っており、そこから新たな関係が生まれる。
- ・ 若い人に参加してもらえる企画が必要である。
- ・ 町内会に防災・防犯・福祉の委員会がそれぞれ組織されており、イベントも委員会がしている。
- ・ 段取りをする人と実働部隊が別々に必要である。
- ・ 場所の力というものがあると思う。拠点として集会所などがあり、芝生があれば、イベントも出来る。
- ・ みんなが必要とする防災に力を入れるとついてくるかもしれない。
- ・ 6階建ての共同住宅に住んでおり、災害時等にエレベーターが止まると、多数の方が降りられない事態になることから、エアストレッチャーを使用した防災訓練を行った。
- ・ 地域をよい環境にすることについては、近況をお互いに話し合うことが必要である。
- ・ 地域にある福祉施設との連携が必要である。
- ・ 3ヵ月に1回、各包括と高齢者や認知症についての地域会議が出来ればと考えている。
- ・ 関係づくりが大切であり、サロンや会議等から関係を作っていくことで、急には無理だが、少しずつ変わっていく。
- ・ 町内会は地域の要である。
- ・ 市には、専門団体に力を入れるのではなく、町内会を守ってもらわなければならない。
- ・ 小学校区単位を包括した連合自治会が必要である。
- ・ 連合には以前加入していたが、行事が多く、町内だけで手一杯のため、脱退した。
- ・ 高齢者は役員を免除していたが、その分、若い人の負担が大きくなってしまったことで、若い人も辞めていくことになっている。
- ・ 自治会加入は必要なことだが、強要せず、やりたい人にやってもらう。
- ・ 毎年、役員が交代するので、継続的活動が続かず、問題解決をする時間がない。

- ・ 高齢者が順に町内会を辞めていく。
- ・ 町内の空き地に4階建ての共同住宅の建設が予定されていることが判明したが、北側に住宅があるため、日照が奪われる可能性があるという問題がある。
- ・ 地域住民で地域の環境や景観等について考える「まちづくり協議会」を設立し、条例で規制をしている。
- ・ 自分たちの地域環境を守るために、協議会を設立し、条例で規制することは有効だが、実際に作るにはハードルが高い。

<Bグループ>

- ・ 小さい町内会で、割と活動しやすく、1人暮らしの方の見守り活動も学区福祉委員としてやっている。
- ・ 町内会・自治会として福祉の取組を進めなくてはいけないということで、3年前に福祉部を立ち上げたが、どんな活動をしていけばいいか模索中である。
- ・ 役員の任期の問題が一つの障害になっているのではと思っている。
- ・ 小さい町内会で、お互いのことを知っているのも、電気がついているか確認したり、救急車がきたら顔を出したり、お互い心配し合っているのがいいところである。
- ・ 高齢化がすすみ入院等の際に町内会費や今後の活動についてどうしていけばいいのかというのが課題になっている。
- ・ 福祉の問題はかなり力をいれないと解決は難しく、やればやるほど難しいことが多いと感じている。
- ・ 今後、要介護の方へのサポートを町内会・自治会が主体となって行うのが理想だと仰っていたが、どこまで町内会・自治会でやるべきなのかわからない。
- ・ 町内会で、生活のサポートとして電球交換や、病院の付添などを有償でやっているところが多く、そういった活動から少しずつ範囲を広めていければと思う。
- ・ プライバシーの問題もあるが、自分から手をあげて周りの人にわかってもらうということが大切である。
- ・ 町内会内で発言しやすい雰囲気づくりも大切と考える。
- ・ 役員だけで取り組んでいくことは難しく、輪番制をこえて、協力し合うことが大切であり、地域の協力員というような方を4～5年かけて作っていくことで解決できるのではないかと考えている。
- ・ 役員を長年続けるのは負担だが、福祉の活動だけなどであれば5年など続けて活動してくれる方を見つけられる場合がある。
- ・ 町内会の中で地域活動に関わっている人、民生委員や学区福祉委員が誰かを町内会が把握しておくことが大切である。
- ・ 誰が役員を担うかも大切だが、ごみ出しを手伝うこと、できることはお互い助け合うことから始められたらと思う。

- ・ 今回の懇談会のような場は必要だと思う。
- ・ 懇談会の時間が短く、開催回数をもっと回数が多くてもいいと思う。
- ・ 同じメンバーで何回か話合いたい。
- ・ 土日にこういった会の開催があればありがたい。
- ・ 民生委員や学区福祉委員など相談するところがバラバラでわかりづらい。
- ・ 民生委員と学区福祉委員の違いがわかりづらい。
- ・ 地域に似た団体が多い。
- ・ 高齢者の困りごとは町内会より民生委員へ相談されることが多い。



< Cグループ >

- ・ 会長が1年ごとの改選だが、今回で2回目のため、何かやろうと思い、自主防災マニュアルを作り、これから配布する予定である。
- ・ 会長になり、やれることはやろうと思いやってきたところ、今までの懸案事項のほとんど

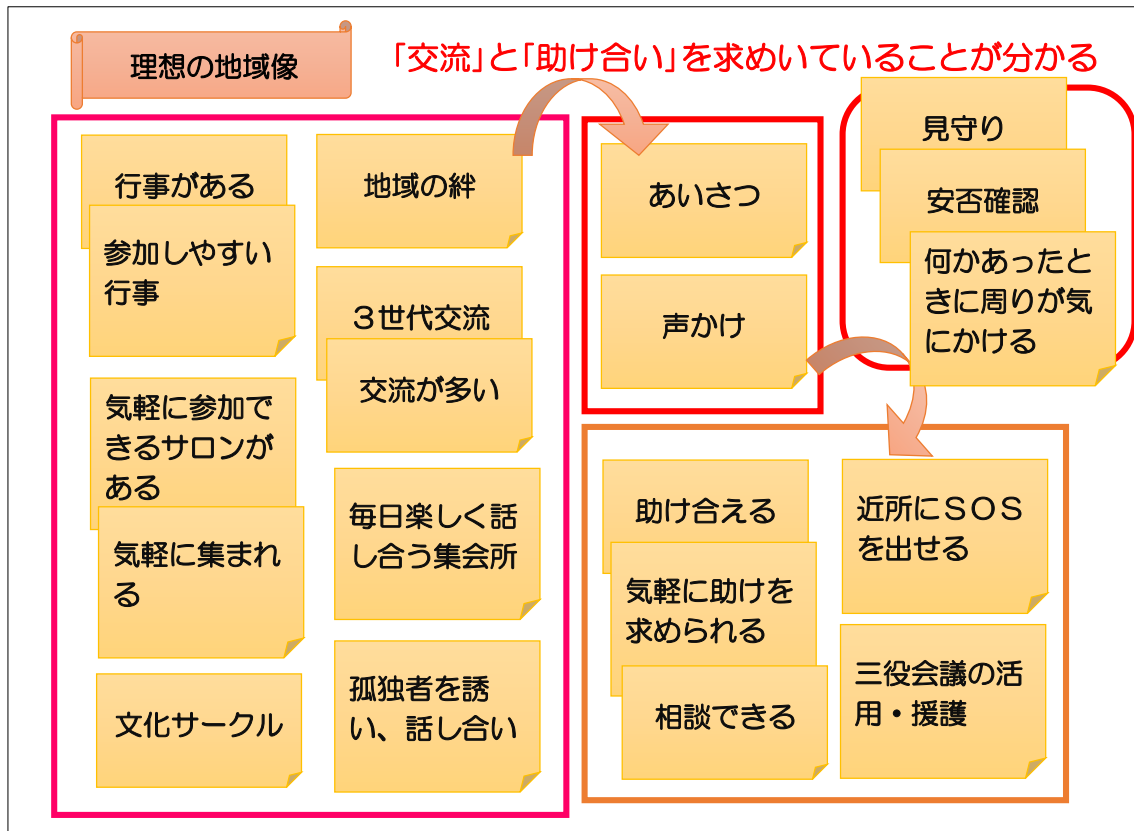
どは、この1年間で解決した。他の役員も積極的に協力してくれたため出来たと思う。

- ・ 集会所の下に投書箱を設置し、町内会の改善案など等を投書できるようにしている。
- ・ 総会には役員しか集まらない。
- ・ 75歳以上は役員の辞退権があるため、候補者が少なく、すぐに役員が回ってくる。
- ・ 役をしていたら町内のことが把握できる。
- ・ 以前は抽選・くじ引きで役員を決めていたが、副会長に立候補する方が出たことがきっかけで、会長、会計、庶務も立候補者が出るようになった。
- ・ 年1回、レクレーション(昼食会)を行うが、今年はそこに敬老のお祝いの行事を合わせて開催し、送迎可能な場所を選び、高齢者にも楽しんでもらおうと考えた。
- ・ 今までの町内会の行事等の写真を集めてDVDを作成し、好評だった。
- ・ 子供の減少により、数年間、子どもの行事は無かったが、今年、子供が3人入ったことで、子ども神輿を復活させ、町内を回ったら喜んでもらえた。
- ・ お年寄りが多くなったため、近くの堤防でバーベキューをしているが、他の行事はほとんどない。
- ・ 親睦会のバス旅行と児童公園の掃除は、28年間行っている。
- ・ 3年前から20年ぶりに秋祭を開催しており、100名以上の参加がある。
- ・ 活動がマンネリ化しているが、夏祭りにはほとんどの会員が参加している。
- ・ 子どもが減り、子供会が無くなり、子供の行事がない。
- ・ 行事への参加者が固定化している。
- ・ 高齢者の増加により弔費等の支出が増えてきた。
- ・ 災害時に、一人暮らしのお年寄りをどのように手助けしたらよいかを個人的には考えているが、町内会で集まって話し合うことは、なかなか出来ない。
- ・ 組長を通じて町内会名簿を改定し、自主防災マニュアル作成の中で、要支援者名簿も作成した。
- ・ 町内会で防災訓練をしており、ほとんどの世帯が参加するが、近隣の3町内会が合同で防災訓練等の活動をする際には、参加者が少ない。
- ・ 災害の時に、一番頼りになるのは町内会・自治会、要するに隣近所である。
- ・ 顔を見ない日が続いた場合、近隣住民に様子を聞いたりしている。
- ・ 各家を訪問する場合は、会長だけでなく、必ず、よく見知っている組長と一緒に回ることにしている。
- ・ 3年前からふれあいサロンを月3回、3町内会に声をかけ実施しており、参加者が増えてきた。
- ・ プライバシーの問題があり、町内の家族状況等は把握できていない。
- ・ 世帯の多い地域だと、どんな人がどこにいるかを把握することは難しい。
- ・ 町内会役員としてどこまで関わられるかという悩みはある。
- ・ 町内に子どもが3人しかおらず、若い人は町外へ出てしまい、二世帯住宅もない。

- ・ 町内会の会員は、増えることは無く減る一方である。
- ・ 高齢者が増えたことと、役職を受けたくない、拘束をされたくない、町内会費を支払いたくない、役員とのトラブル等の理由で脱会していく。
- ・ 今の町内会でのメリットが、よく分からないと言って脱会する人もおられ、それを引き留める方法も難しい。
- ・ 宇治市からの来るゴミ出しの案内等の回覧物は、未加入世帯へも配布している。
- ・ 犬・猫の糞、空家の民泊問題がある。

<Dグループ>

- ・ 地域のつながりが希薄していると感じる。
- ・ 高齢者や単身世帯だけではなく、子どもと大人のつながりや地域の絆が薄れている。
- ・ 若い世代は、交流が面倒に感じる方もいる。
- ・ 地域のつながりが濃密になることが魅力になるとは言い切れない。
- ・ 子どもから高齢者までみんなが集まる機会や場を作っていくべきである。
- ・ 人が集まれることが大切だが、地域の絆が薄らいでいる。
- ・ 地域の関係性が希薄化しており、今後、関係性をどう取り戻していくかを考えなければならない。
- ・ 学校の吹奏楽部を招いて、祭りを企画しようと考えている。
- ・ 独居老人の孤独死を3年で3件、1年に1件程度遭遇していることになる。
- ・ 町内で火災が発生した際に近隣住民は誰も助けにはいかず、民生委員のみが対応したと聞き、後でわかったことだが、未加入世帯だった。
- ・ 一人で外出が困難な方への見まわりも大切であり、声をかけられないから出てこないという高齢者もいるため、声をかけることも重要である。
- ・ カラオケや生け花等の高齢者の趣味の延長となるような、交流の機会をつくっていきたい。
- ・ それぞれの地域に合った子どもから高齢者までが参加しやすい行事を行うことが出来れば、そこから「あいさつ」も出来るようになり、「あいさつ」から「助け合い」が生まれてくるのではないか。
- ・ 地域事情は様々であるため、一律には出来ない。
- ・ 活動が出来るか、出来ないかは別だが、考えることが必要である。
- ・ イベントに親を巻き込むと子供がついてくる。
- ・ 里帰りしている方の子供も参加できるようなイベントにしている。
- ・ 新たにイベントを企画しなければ、人が集まるイベントがない。
- ・ 昔は三世代が多かったが、現在は核家族や単身が多い。
- ・ 今後は人も開拓しなければならない。



- ・ 年々、町内会・自治会の組織率が低下している。
- ・ 役員のなり手不足により、くじ引きにより会長を決めている。
- ・ 高齢化になり、役員をやりたくないという声が多い。
- ・ 年を重ねると色々なことに手を付けることを避ける傾向にある。
- ・ 高齢化により役員が出来ない方が増え、世帯数も減ったため、組数を減らした。
- ・ 役員は選挙により決めているが、一度役員になられた場合、5年間は辞退権があり、75歳以上も辞退権がある。
- ・ 町内のことを考えていくためには、役員が選挙による一年交代では、同じことを繰り返すだけになると思い、三役については選挙から立候補制へ変更した。
- ・ 活動に関して意見を挙げてくださる方はいるが、実際の行動へは中々つながらない。
- ・ 自治会で70歳以上に祝金を渡しているが、地域の高齢化に伴い、祝金に係る費用が大きく、支出に反対した20世帯以上が脱退した。
- ・ 脱退理由に「地域の人と関わりたくない」というものもあった。
- ・ 町内に転入されて来られた方には、町内会への加入案内をしているが、入りたくないという方もいる。
- ・ 未加入世帯はごみ捨て場の掃除をしない。
- ・ 他の町内会の方がゴミを捨てにくることが問題になっている。

- ・ 町内会費で消火器の点検、交換や外灯費用等を負担しており、未加入世帯に町内会のことを知ってもらい、利を得ていることを理解してもらおう。
- ・ 町内会費が何に使用されているか、役員になって初めて知った。

(5) 終了